

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 10 日

仕 事 の 内 容	行政評価事務			
担当部署・課長名	行政管理 課	行政管理 係	課長名	木村 西

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施策番号	行 - 2	-
【施策名】 効率的でスリムな行財政運営の実現	総合計画書 (ページ)	122	

予算名	款 2	総務費	項 1	総務管理費	目 7	企画費	事業 5	行政改革推進事業費
-----	-----	-----	-----	-------	-----	-----	------	-----------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 ① 施策 ② 施策内の事務事業	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) ① 施策数 ② 事務事業数
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 課題の把握、今後の方向性(課題解消の方策)が立案され、効果的・効率的に執行されている。	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) 行政評価が課題の把握、今後の方向性の判断に活用されている数(活用されていると思う人数/研修参加数)
	③ そのために何をしましたか。 ① 研修の実施(施策評価、事務事業評価、優先度評価等) ② 施策評価(優先度評価含む) ③ 事務事業評価 ④ 市民事業評価	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) ① 研修参加者数(施策評価、事務事業評価、優先度評価等) ② 施策評価数 ③ 事務事業評価数 ④ 市民事業評価事業数

2 指標の推移		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標	
	対象指標	①の数値	事業 ① 32 ② 425	① 32 ② 417	① 32 ② 454	/	/	
	成果指標	②の数値	%	-	24.2	28.8	/	/
	目 標	②の目標値	%	100.0	100.0	100.0	100.0	/
		目標値設定の考え方	施策・事務事業評価が、成果・課題の認識、今後の方向性の立案に全庁的に活用されている状況を目指す。					
活動指標	③の数値		①46 ②32 ③425 ④17	①88 ②32 ③417 ④ 6	①90 ②32 ③454 ④ 6	/	/	

3 経費	事業費(実績)		円	1,309,642	1,081,681	980,514	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外)年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	1,309,642	1,081,681	980,514	
		特定財源	円	0	0	0	
		(うち受益者負担)	円	0	0	0	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.6	0.8	0.7	
		所要人数(再任用)	人				
		職員人件費(再任用以外)	円	4,133,500	8,253,000	5,770,800	
事業費+人件費		円	5,443,142	9,334,681	6,751,314		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。	平成18年度開始。職員の意識改革、成果重視の行政経営を目的とした行政評価制度を導入した。平成18年度は1課1事務事業を評価対象とした。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。	・評価数を徐々に増やし、平成24年度から全事務事業を対象としている。 ・2年間の試行を経て、平成26年度から外部評価を実施。また、平成26年度から施策評価を導入した。

仕 事 の 内 容	行政評価事務			
担当部署・課長名	行政管理	課	行政管理	係 課長名 木村 西

5 市 民 等 の 意 見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について
	市民事業評価会議（外部評価）で、「振返りシート」はもう少しわかりやすく記載してほしい、2次評価会議の意見はどの事業も的を射ているので、実際に課題として管理し今後の事業に反映したらどうかという意見があった。

6 市 民 協 働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）	
	取り組んだ	取組手法 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体：市報、ホームページ、ツイッター）⑧（市民事業評価会議） 【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ）⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点 市民事業評価会議（外部評価）を実施した際に、委員から、負担を感じているという声があった。	

7 課 題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振返りシート 「7 課題（2）」の内容 <ul style="list-style-type: none"> 行政評価結果を活用するには振返りシートの質の向上が必須となるため、記述水準（市の裁量、事業単位）などある程度の統一性を図れるようシートの改善も含め活用しながら整理をしていく。
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。 <ul style="list-style-type: none"> 行政評価の精度を高めるため、2次評価会議の方法を変更（講師を依頼せず、各部から推薦された評価者のみで実施し、振返りシートを基に意見を出し合う方法に変更した。）。 2次評価会議で出された意見を踏まえ、振返りシートの様式を改善するなど、評価結果の活用につながるよう努めた。
	(3)(2)を踏まえた今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> 記述水準や評価結果の活用方法について、引き続き整理していく。 市民事業評価会議の評価対象事業の選定、会議運営の見直し。

8 今 後 の 方 向 性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など） <ul style="list-style-type: none"> 行政評価は、課題の発見・事務事業の改善につなげるものであること、行政の透明性を高めるため、市の事業内容について市民に説明する手段であることを全庁的に認識させる。 市民事業評価会議の評価対象事業の選定、運営方法について検討する。 			
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 <ul style="list-style-type: none"> 研修の実施（施策評価、事務事業評価） 市民事業評価委員の意見や他市の状況を把握 			
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:10%; text-align: center;">成果</td> <td style="width:40%;">成果を向上させる。</td> <td style="width:10%; text-align: center;">経費</td> <td style="width:40%;">仕事の経費は維持する。</td> </tr> </table>	成果	成果を向上させる。	経費
成果	成果を向上させる。	経費	仕事の経費は維持する。	